

# 新聞配達に関するエッセーコンテスト

## 21H 畑 千穂 さん

入選「中学生・高校生部門」



畑 千穂さん 〓七尾市

感謝の気持ち  
伝えたかった

感謝の気持ちを伝えたかった。「誰も見てないところで、朝早く働いてくれている」。入選には「まさか選ばれるなんて」と笑う。白山市中宮生まれ。実家周辺は1人暮らしの高齢者が多く空き家も目立つ。看護を学んでいるせいか「家の中で倒れているといけない」と配達員にポスト内を気にかけるよう頼んだ。「その取り組みが地域の人を安心させると思う」  
(田鶴浜高校2年)

「これからもよろしくお願いします」

人口100人にも満たない小さな小さな村にも、毎日、新聞は届く。私の住んでいる地区は、人口が少ないだけでなく高齢化が著しく進んでいます。小学生はたったの3人。中学生は1人だけです。気が付けば向かいの家も両隣も空き家状態。そんな村にも毎日毎日来てくれてありがとうございます。早起きが苦手な私は一度も新聞配達をしていないけれど、見たことがないけれど、伝わるといういな。

うねうねした山道を、冬の除雪がされていないことがある道を、毎日ありがとうございます。それだけでもありがたいけれど、一つお願いをしてもいいですか。ポストに新聞がたまっている家があったら気に掛けてください。一人暮らしのおじいちゃん、おばあちゃんが多いのでお願いします。きつとこんなことお願いしなくても、既に行っている人を見て、うなと思っただけです。